

私の名盤レコード 1. パット・メセニー (Pat Metheny) 編

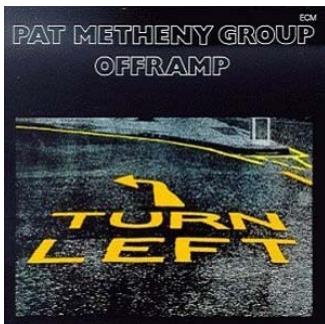
パット・メセニーは、アメリカ合衆国のジャズ・ギタリストで、現代ギタリストでは No1 と言われており、驚異的なテクニックと独自のアドリブフレージング、何と言っても楽曲の素晴らしさと多様性は、他に類をみないものです。

15歳からプロ活動を開始、ビイブラフォン奏者で著名なゲーリー・バートンの楽屋に押しかけて認められ、彼のバンドに加入した逸話があります。独学による音楽理論の深度と技術から、19歳という若さでバークリー音楽大学の講師に抜擢されました。その後、ソロや自己のグループやハービー・ハンコックなどの大物プレイヤーとのコラボなど、世界各地で活躍しております。

その彼も今や71歳でジャズ界の大御所となりましたが、近年も精力的に新作アルバムを発表しております。

私はアルバムをほぼ全部持っておりますが、作品数は50を優に超えております。その中で、今回はお気に入りのアルバム2枚について紹介します。

まずは、「Offramp (出典 ECMRecords)」です。1982年の発表で、ソロ活動開始から6年後の作品でパット・メセニーグループとしてのものです。その中の「James」という曲は、とても美しいピアノソロから始まりギターによるテーマに移行するのですが、分かりやすく情緒ある旋律で一度聞くと、忘れられない気持ちになります。パットの曲の中では良く知られ、良く他のプレイヤーにカバーされたものです。このアルバムでは、パットの代名詞であるギターシンセサイザーによる複雑、難解、超絶技巧のソロギターも聴けます。これは日本の Roland が製作したもので、パットはこのギ



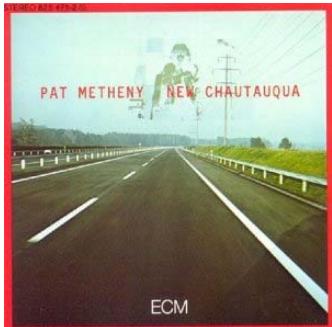
ターをソロパートで自在に操っており、相当数持っているそうです。パットが主に使うギターは、初期の Gibson ES175 からその後 Ibanez 社日本製のフルアコとともに、Roland のギターシンセサイザーは欠かせないものです。

パットの楽曲は、時には難解でありオーネット・コールマンとの共演アルバム「SongX」では、強烈にアウト感のあるもので、聴くのに相当な覚悟が要りますが、時にはメロディックで美しい旋律の曲があります。

「James」は、とても美しく懐かしさと愛おしさを感じるメロディーと、軽快でわかりやすくアドバンスを感じるギターソロにより、時々聴きたくなる名曲です。イントロのピアノソロは、この曲をさらに素晴らしいものとしており、パットの盟友である故ライル・メイズが弾いていると思います。

このアルバムを聴いたことない方、普段あまりジャズを聴かない方には一度試していただきたい名作です。

次は、1978年に発表されたアルバム「New Chautauqua (出典 ECMRecords)」で、1976年ソロデビュー作「Bright Size Life」から2年後の作品。これは、パットが一人でアコースティックギター、12弦ギター、フルアコ、Roland ギターシンセサイザーとベースギターなどを演奏し、多重録音で創られた逸作です。アコースティックギターを前面に出しており、透明感のある叙情的な流れとなっております。パット・メセニーグループによる「American Garage」のバンドサウンドか



ら聴き始めた私にとって、このアルバムは最初、物足りない感じがしましたが、歳を重ねていくうちにお気に入りの1枚となりました。そのなかでも好きな曲は「Sueno Mexico」邦題で「メキシコの夢」、12弦ギターによる美しい響きのアルペジオが延々と続き、アコースティックギターによるテーマ、音符がさほど多くなくシンプルなソロギターへと、ベースギターとのアンサンブルも良い感じです。メロディアスなマイナーキュレーションですが、ソロパートでは躍动感のあるプレイが聴けます。前述した透明感、叙情的のあるおすすめの曲であります。

昨年の1月、札幌でパットのソロ公演があり急いでチケットを買いましたが、3階席となりました。2千人以上のホールは満員となり、さすがパット・メセニーです。何度もアンコールに応えてくれ、2時間以上のプレイで大満足、大興奮でした。パットの代名詞となった「Orchestrion」自動演奏システムを駆使し、一人なのにハイレベルなバンド演奏を聴かせてくれます。すごいシステムです。以前、Blue note Tokyo でも「Orchestrion」でのプレイを堪能しましたが、パット一人でどのように操っているのか不思議です。

そのなかで「メキシコの夢」のイントロアルペジオが始まった時、多くのファンから歓声と拍手が上がりました。みんな好きなんだ、と嬉しくなりました。公演の最後は、スタンディングオベーションです。最高のライブでした。この感激は、故チック・コリア、アル・ディメオラなどのユニット「Return to Forever」の約40年前の札幌公演以来であります。この時は3時間も演奏してくれました。アメリカのジャズミュージシャンは、サービス精神が素晴らしいですね。

今回は、パット・メセニーの名盤レコードを2枚紹介させていただきました。ジャズの入門アルバムとしては、聴きやすいですし好きになると思います。引き続き「私の名盤レコード」を書いていきます。自分はギター弾きなので、そっち系が多くなるかもしれません。フォーク、ロック、ブルース、ジャズ、下手くそながら長年弾いております。たまに地元でライブをやってましたが、前期高齢者となった今は家弾き専門です。

2025年11月 士別軌道の社長 井口 裕史 67歳